

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

459-683

事務事業名	児童クラブ設置運営事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	教育委員会	課等名	学校教育課		包含する細々目	1	3	2	7	11	2	51,570
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり											
施策	37 子どもを産み育てやすい環境の充実											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	不要	次世代育成支援飯田市行動計画						
		事業期間	S45	年度～	年度	関連計画条例等						

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	・放課後家庭に保護者のいない低学年児及びその保護者	放課後留守家庭の小学校低学年児童数	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする
			700			
		放課後留守家庭数	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
			500			
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
・放課後留守家庭の児童が、安心して過ごせる場所を確保する。 ・保護者が安心して働けるようにする	市の運営するクラブ利用児童数 / 申込者数 (%)	18目標	99	最終目標	100	
		18実績	93	19目標	100	↑
	23目標		23実績			最終目標達成年度
	児童館・センター・クラブを利用して働き続けている世帯の割合	18目標	99	最終目標	100	
		18実績	99	19目標	100	↑
		23目標		23実績		最終目標達成年度

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	・放課後留守家庭のいわゆる「鍵っ子」の居場所づくりをして、家庭に代わって児童の健全育成を行う。 ・児童館・センターも併せて、市内全小学校区単位に放課後児童クラブを設置している。 ・市の直営であるが、各クラブごとに運営委員会を組織してもらい、主体的に運営をしてもらっている。市は厚生員の人件費と運営経費の補助を行っている。	18年度の実績	・三穂・上久堅児童クラブの開設 ・10児童クラブ(松尾・切石・下久堅・龍江・橋南・伊賀良・浜井場・川路・三穂・上久堅)の運営 ・定員オーバーのいわゆる待機児童への対応について検討 特に上郷地区では待機児童数が顕著なため、19年度に向け具体的な対応策を講じる	児童館・センター・児童クラブが設置されている数 利用している児童の数
19年度計画		・定員オーバーの顕著な上郷地区に新たに児童クラブを開設する。 ・運営については、18年度と同じ ・利用者負担について適切な負担額を検討 ・「飯田こども未来館」について、国の補助打ち切り後の市としての関与について検討する	児童館・センター・児童クラブが設置されている数 利用している児童の数	18 780

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金	19,906	20,623
	起債		
	その他		
一般財源	28,964	30,947	
事業費計(A)	48,870	51,570	
人件費	正規職員所要時間	18年度 240	19年度 240
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	858	858
	トータルコストA+B	49,728	52,428

特定財源内訳や補足事項	児童健全育成事業補助金 国1/3、県1/3
-------------	--------------------------

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	・子育て世代が産み育てやすい社会環境が整う。	子どもを育てやすい社会環境であると感じている対象者の割合	現状値	55.8	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	60
	児童館・児童クラブの受け入れ可能数(人)		現状値	746	19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標	800	

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
・昭和40年代から女性の家庭外での就労が増加し、放課後家庭に保護者が居ないケースが増加したため、その家庭の児童の保護と健全育成を図るため児童館等を設置してきた。	・男女共同参画社会の推進により女性の就業率が高まっていること、生別母子が急増していることから、児童クラブ利用のニーズが年々増加している。 ・利用児童の中に障害児がみられるようになってきている。 ・従来「地域子ども教室推進事業」(文科省)と「放課後児童クラブ事業」(厚労省)を一体的あるいは連携して実施し、総合的な放課後対策をめざす、放課後子どもプランが創設された。	・議会から小学校単位に設置の要望がある。(18年度において小学校単位すべてに設置される。ただし、千代地区は民間が運営) ・保護者から障害児であっても同様に受け入れてほしいという希望がある。

【See】18年度の振り返り

目的妥当性評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) 関連事業あり (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)？	(評価) 必要ある (その理由)		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 可能 (その理由)
			公平性評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当でない (受益者とその理由)

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持	実施年度 〃	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案 ・H19年4月から高松児童館の待機児童対策として、上郷児童クラブを開設する。 ・定員を大幅に超える放課後児童対策について、現在国で検討されている「放課後子どもプラン」を含め検討する。 ・負担金の適正化に向け検討する。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	学校をはじめ保護者、地域住民への周知を図り協力を願う。	

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由	
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？			

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	